# 九州経済の活性化と低炭素社会の実現
## ―環境・エネルギー分野で全国を先導

九州経済産業局長
橘高（きったか）　公久（きみひさ）

### 1. 九州の現状

九州は、面積、人口、GDPなどからみて我が国の「1割経済」といわれる。ただし、温暖な気候、人や地域のきずな、神話の時代からの歴史や文化、1割を大きく超える農畜水産生産、水資源、世界的な火山や島、温泉などの観光資源等を含めた、いわば「生活環境の豊かさ」は相当なもの。このような多様な地域価値については、国民生活の豊かさを考える際に大いに留意すべきだろう。

経済的にも九州は着実に発展している。もともと近代産業の歴史において、製鉄、造船、石炭、セメントなどの基幹産業が集積していた。今も、最新鋭の大規模拠点を有し、わが国の鉄鋼の14%、造船の30%、セメントの22%を生産している。近年は、自動車産業と半導体産業の集積が進み、それぞれ約10%、約30%を生産している。九州地域は、ものづくりの活発な地域であったことから、大学や高専を中心に、研究開発や人材育成の面でも強い基盤を持っている。

一昨年来の経済後退は九州にも大きな影響を与えたが、鉱工業生産は急速に回復しつつある。ただし、全国と同様、域内経済で比重の高い商業や観光などが低調で、雇用や所得面でも厳しいことから、本格的な回復感はまだ乏しい。

### 2. 九州の強みと成長戦略

目下、政府では我が国の成長戦略を検討中である。その「骨子」においては、今後10年間、名目3%、実質2%の成長を目指し、①環境・エネルギー、②健康長寿、③観光・地域活性化、そして④アジアの成長を取り込んだ国際化という4つの分野を成長の柱に掲げている。九州においても地域の強みをいかした成長戦略を検討してまいりたい。4つの分野は、九州にとっていずれも重要だが、中でも九州が先行している、環境・リサイクルとエネルギーの分野についての動向をご紹介する。

#### (1) 環境・リサイクル先進地域

環境・リサイクル産業は「静脈産業」と呼ばれてきたが、今や、「資源・エネルギー創造産業」として戦略的産業である。九州では、かつての公害問題を克服し、我が国の環境モデル都市に指定されている北九州市と水俣市を中心に、各地で環境都市の整備を図っている。家電、自動車、建築廃材、金属、プラスチック、古紙、蛍光灯、おむつ、下水汚泥、廃油など実に広範なリサイクル産業が集積してい

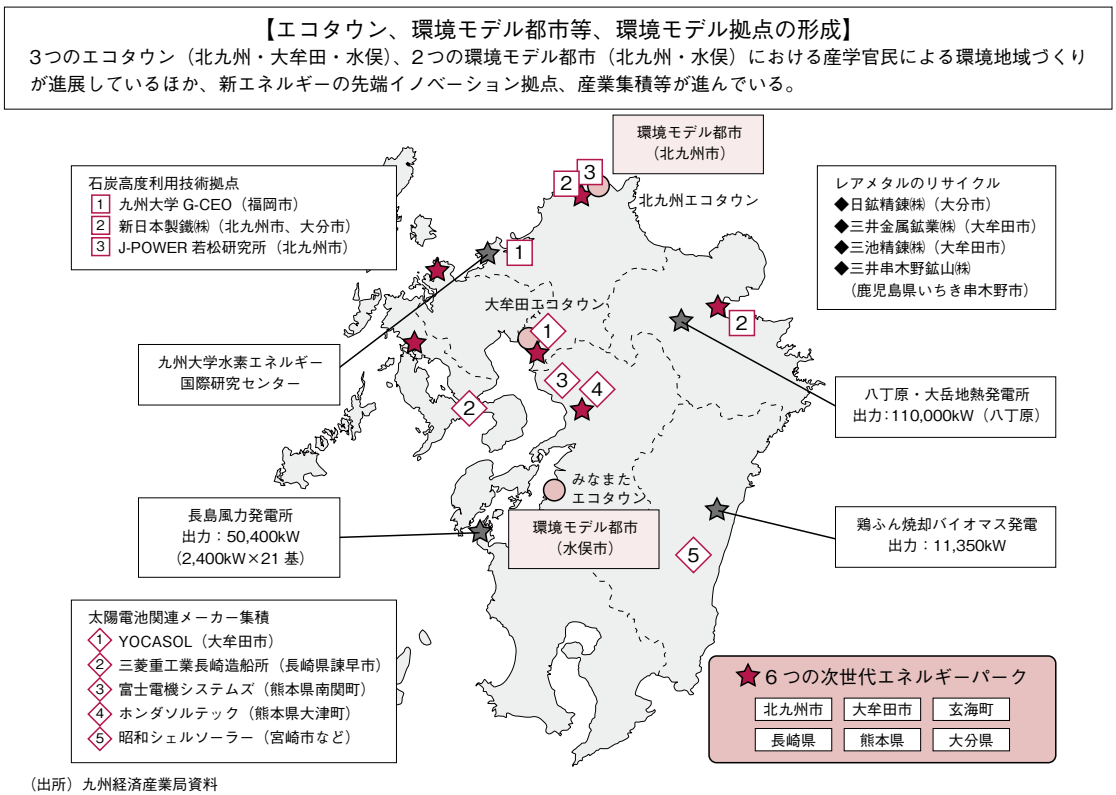
る。また、九州の特徴である焼酎かす（全国の90%）や畜産関係のふん尿（同25%）に加え間伐材、食品残渣等バイオ系の資源も飼料、肥料、燃料などへの利活用が進んでいる。地域では、有機農業への利用と直売場、農家レストラン、「緑提灯」(注) などの地産地消の取組まで、資源循環の輪ができているのも特徴である。

また、鉄鋼やセメントなどエネルギーリサイクルの進んでいる主要企業の集積も強みである。造水、水処理や環境調査、土壌改良等の環境関連産業については、公害処理の経験をいかした高度な測定技術や浸透膜、ボーリング、水処理機器等のメーカーの集積がある。また、福岡市には日本最大級の海水淡水化施設（5万トン／日）が稼働している。

**(2) エネルギー利用先進地域**

新エネルギーの導入やエネルギーの効率的利用の面でも、太陽光発電や水素利用をはじめとして九州は先進的な取組が進んでいる。戸建住宅への太陽光発電の普及率は全国トップで全国平均の2倍を超え、県別上位3地域は佐賀県、熊本県、宮崎県である。また、LPガスを用いた家庭用燃料電池の大規模実証を2008年度から福岡県前原市で開始している。九州大学や(独)産業技術総合研究所の水素材料先端科学研究センターを中心として、国のモデル実証地域として水素の利用実証を進め

**図1　環境モデル拠点の形成①**




（出所）九州経済産業局資料

ている。さらに、現在、水素エネルギー製品研究試験センターを整備中であり、世界最先端の水素の研究・実証・評価の拠点形成を進めている。

経済産業省の進める次世代エネルギーパークにも既に6ヵ所が認定されており、多様な再生可能エネルギー等を活用した、住・遊・産が一体となった社会実証や学習拠点形成を進めている。

産業面では、薄膜型を中心に次世代型太陽電池のメーカーが多数集積しており、宮崎県におけるギガワット級の工場増設など設備投資も進んでいる。また、燃料電池、風力発電、地熱、高効率石炭利用、バイオマス発電、海水温度差発電、潮力発電など、広範な研究開発・実証が行われている。

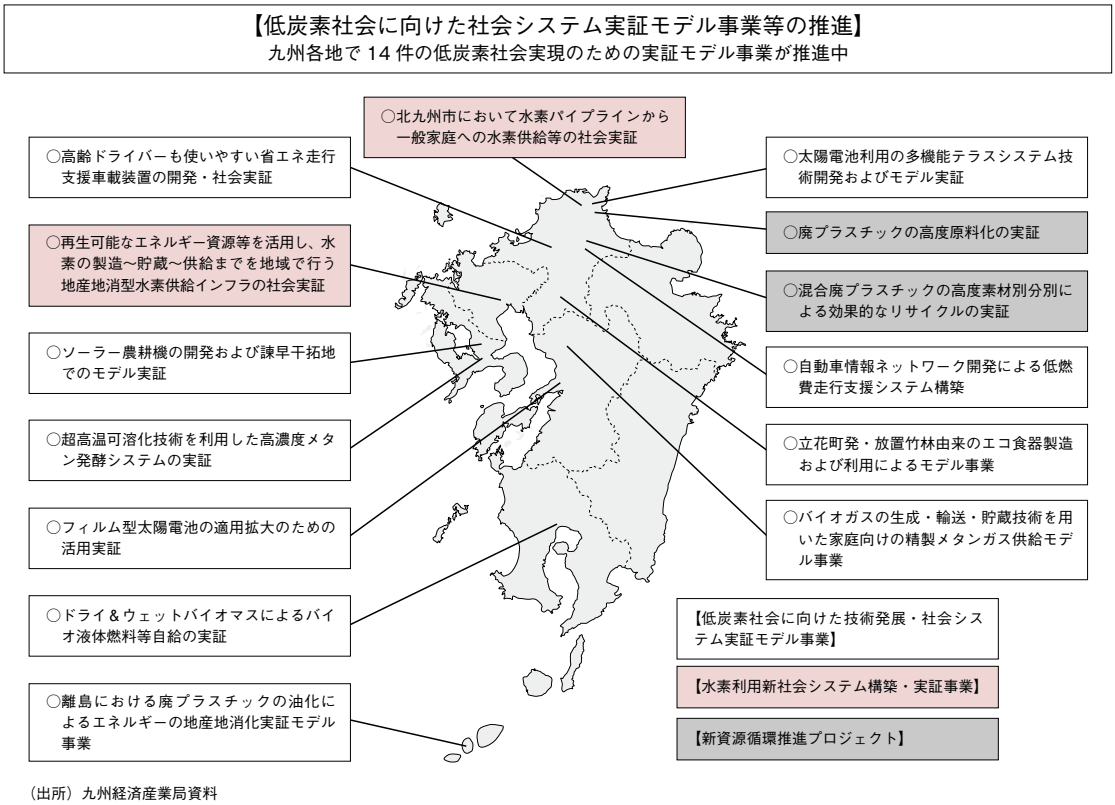
このような取組を支える中心となっているのが、九州地域環境・リサイクル産業交流プラザ（K-RIP）と九州シリコンクラスターという2つの産業クラスターである。前者は約470の会員、後者は約220の会員を有し、産学研の連携の下、活発な活動を進めている。

九州には国内外からの見学者、訪問者も多く、北九州市のエコタウンセンターには年間10万人が来訪し、うち1万人はアジアを中心とする外国人である。

### 3. 中国をはじめとするアジアへの展開

成長戦略においては、アジアの成長を取り

**図2　環境モデル拠点の形成②**




（出所）九州経済産業局資料

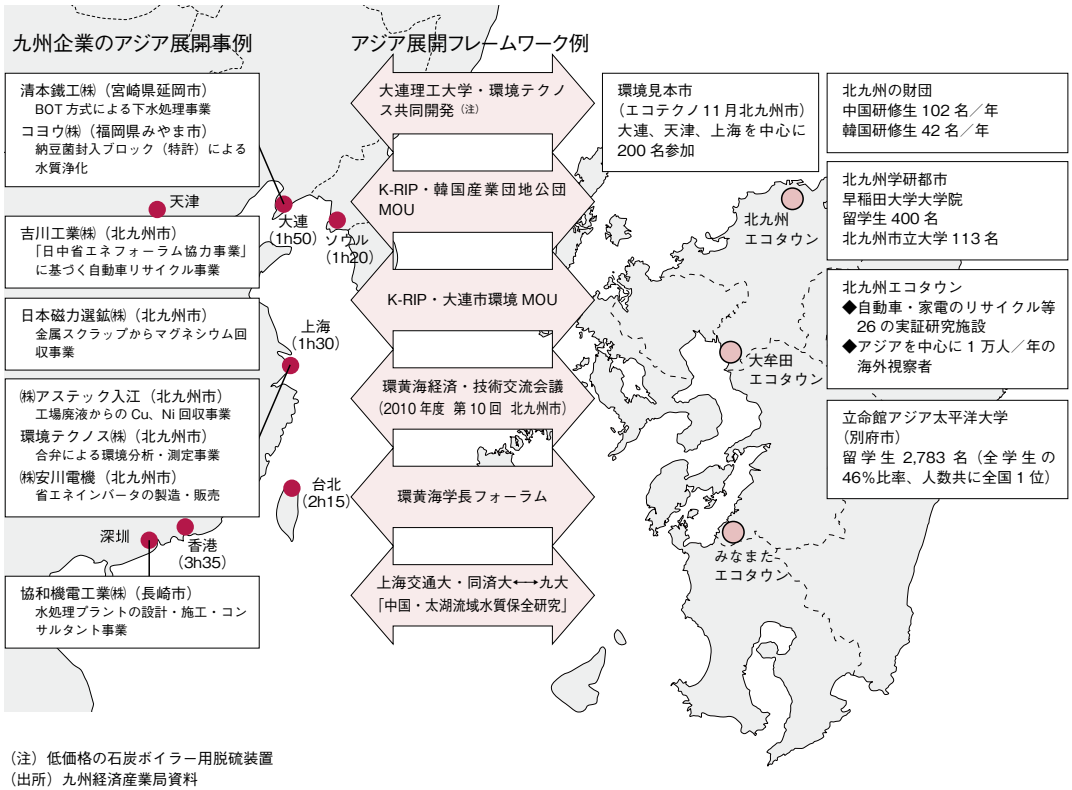
込んだ国際展開の重要性が位置付けられている。中国をはじめ各国とも、既に、環境問題やエネルギー制約が大きな課題となっている。九州における関連産業集積と実証成果はアジア諸国の問題解決に有効であるとともに、我が国産業にとって新たな柱として極めて有望な分野である。

1月には、私自身も、K-RIPおよび北九州市の代表団と共に、遼寧省瀋陽市と大連市を訪問し、貿易・投資商談、省市政府および進出企業との協議等を行った。中国側の環境問題への取組は真剣になっており、九州に対する期待の高さを感じた。2009年末に、中国の習近平国家副主席がエコタウンを知るために北九州に立ち寄ったことは象徴的である。

今後、国際展開を進めるためには、多様な課題に対応したシステムソリューションの提案ができるかどうかが鍵になろう。このため、地域でも、課題対応型の企業連合というような体制の構築が必要だと思われる。また、国際展開のためには①相手国の商機、投資環境や制度等に関する情報、②信頼できるビジネスパートナーの確保、③さまざまな問題の円滑な解決が重要となるため、当局としても、個別事業にまで踏み込んだ支援が重要になると考えている。

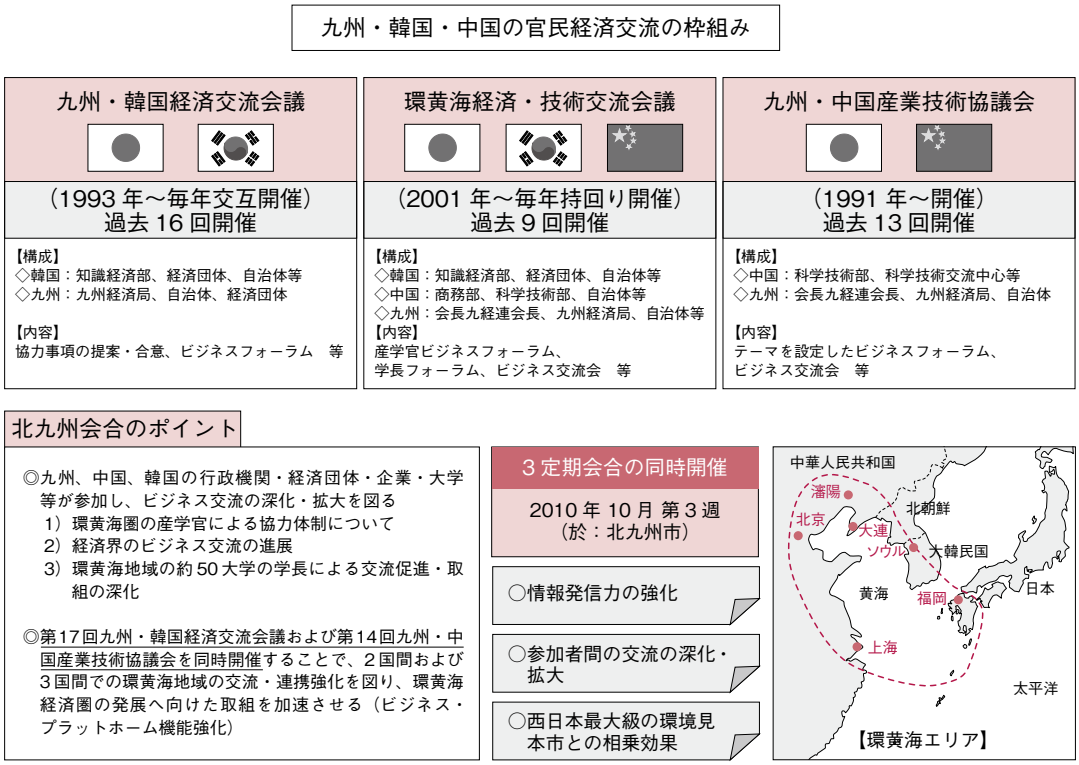
2010年は、8月にはAPECの経済ハイレベル会合が大分で予定され、10月には、産学官

**図3　環境クラスターのアジア展開の進展**




（注）低価格の石炭ボイラー用脱硫装置
（出所）九州経済産業局資料

**図4　九州地域のアジアとの経済交流の現状　―九州・中国・韓国との交流事業**




（出所）九州経済産業局資料

の九州地域最大級の国際会議である環黄海経済・技術交流会議等3つの定期会合が北九州市で同時開催される予定である。このような機会も念頭に置きつつ、関係各方面と協力し、環境・リサイクルおよびエネルギー分野でのモデルとなるような取組を進めていきたい。

## 4.商社への期待

九州には、各商社が拠点を置いておられる。商社は、①国内外の情報収集・分析力、②プロジェクト組成や参加企業のコーディネーション、③企業の目利き、④物流、人脈、金融機能などの重要な強みを持っている。

我が国の成長のためには、環境･エネルギー分野はもとより、健康・医療関連、観光、農林分野など、将来性のある分野で新規産業が創業、成長し、国際展開していくことが不可欠である。九州は、豊富なポテンシャルとアジアに開かれた地勢的な強みがある。商社が九州の力を引き出し、地域産業群と共に大きなビジネスに発展させていただくことを期待したい。

（注）「緑提灯」は、飲食店が地場食材の使用率に応じて、★の付いた緑の提灯を掲げる全国的活動